

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

**第1問** (45点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適当と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 中間申告を行い、法人税¥1,500,000、住民税¥310,000及び事業税¥480,000を現金で納付した。  
ア. 現金    イ. 当座預金    ウ. 仮払法人税等    エ. 未払法人税等    オ. 租税公課    カ. 法人税等
2. 仕入先より商品¥630,000を購入し、代金は掛けとした。なお、引取費用¥10,800を当社が運送会社へ現金で支払っており、その負担については当社と仕入先で折半し、仕入先負担分については、掛代金と相殺することとした。  
ア. 現金    イ. 買掛金    ウ. 未払金    エ. 仕入    オ. 発送費    カ. 旅費交通費
3. 先月末に¥500,000の土地を¥600,000で売却していたが、本日、代金の全額が普通預金口座に振り込まれた。  
ア. 普通預金    イ. 売掛金    ウ. 未収入金    エ. 土地    オ. 土地売却益    カ. 土地売却損
4. 従業員5名の給料から源泉徴収していた1月から6月までの所得税の合計額¥308,000を銀行において納付書とともに現金で納付した。なお、この納付方法については所轄税務署より納期の特例を承認されている。  
ア. 現金    イ. 当座預金    ウ. 所得税預り金    エ. 給料    オ. 租税公課    カ. 法人税等
5. 営業販売用に使用している携帯電話の料金¥55,000が普通預金口座から引き落とされた。  
ア. 当座預金    イ. 普通預金    ウ. 仕入    エ. 通信費    オ. 水道光熱費    カ. 支払手数料
6. 株主総会において、繰越利益剰余金¥6,000,000から株主配当金¥1,200,000を支払うことが承認された。なお、利益準備金¥120,000を積み立てる。  
ア. 未払配当金    イ. 資本準備金    ウ. 利益準備金    エ. 別途積立金    オ. 繰越利益剰余金  
カ. 受取配当金
7. 従業員の給料¥1,296,000から社会保険料¥80,598、所得税の源泉徴収税額¥197,961を控除した残額を普通預金口座から支払った。  
ア. 普通預金    イ. 未払金    ウ. 所得税預り金    エ. 社会保険料預り金    オ. 給料  
カ. 租税公課
8. 従業員のために、新たに駐車場を賃借する契約をし、当月分の賃借料¥15,000を現金で支払った。  
ア. 現金    イ. 未収入金    ウ. 仮払金    エ. 差入保証金    オ. 支払家賃    カ. 支払地代

9. 出張中の従業員より内容が不明である ¥51,000 が当座預金口座に入金されていた。本日従業員が帰社し、その金額のうち ¥26,000 は得意先に対する売掛代金の回収額であり、残額は得意先からの商品代金の手付金の受取額であることが判明した。なお、当座預金口座に入金された際、仮受金として処理している。

ア. 当座預金    イ. 売掛金    ウ. 未収入金    エ. 仮払金    オ. 前受金    カ. 仮受金

10. 前期の決算において未収利息 ¥32,000 を計上していた。本日、再振替仕訳を行った。

ア. 現金    イ. 前払利息    ウ. 未収利息    エ. 未払利息    オ. 前受利息    カ. 受取利息

11. 買掛金の支払いとして ¥400,000 の約束手形を振り出し、仕入先に対して郵送した。なお、郵送代金 ¥400 は現金で支払った。

ア. 現金    イ. 支払手形    ウ. 買掛金    エ. 仕入    オ. 通信費    カ. 消耗品費

12. 保有する建物に係る固定資産税（年間納付額 ¥124,000（4 期分））の第 1 期分（均等分割納付）および保有する車両に係る自動車税 ¥43,500、自動車重量税 ¥20,300 を現金にて納付した。

ア. 現金    イ. 仮払法人税等    ウ. 未払法人税等    エ. 支払地代    オ. 租税公課    カ. 法人税等

13. 今月の電気料金が普通預金口座から引き落とされた。電気代のうち、基本料金は ¥7,500、電力量料金は ¥5,000 であり、再生可能エネルギー発電促進賦課金は ¥2,500 であった。

ア. 普通預金    イ. 前払金    ウ. 前払費用    エ. 支払手数料    オ. 水道光熱費    カ. 租税公課

14. 得意先に期間 8 か月、年利率 2.3% で ¥600,000 を借用証書にて貸し付けていた。本日満期日のため利息とともに同店振出しの小切手で返済を受けたので、ただちに当座預金に預け入れた。

ア. 現金    イ. 当座預金    ウ. 貸付金    エ. 未収利息    オ. 借入金    カ. 受取利息

15. 事務作業に使用する物品を購入し、品物とともに次の請求書を受け取り、代金は後日支払うこととした。なお、当社は消費税の処理について税抜方式を採用し、消費税率は 10% で計算する。

請求書			
株式会社宮崎商事 御中		株式会社熊本デジタル	
品物	数量	単価（税込）	金額
印刷用紙（500枚入）	3	1,100	¥ 3,300
デスクトップパソコン	1	385,000	¥385,000
合計			¥388,300
X9年 5 月 31 日までに合計額を下記口座へお振込み下さい。 熊熊銀行熊本支店 普通 1234567 カ) クマモトデジタル			

ア. 普通預金    イ. 備品    ウ. 仮払消費税    エ. 未払金    オ. 仕入    カ. 消耗品費

**第 2 問 (20 点)**

(1) 葛城株式会社 (決算年 1 回、3 月 31 日) における次の取引にもとづいて、勘定の空欄①～⑤にあてはまる適切な語句または金額を答案用紙に記入しなさい。

X3 年 4 月 1 日 前期末に借入金に対する未払利息を計上していたので、再振替仕訳を行った。この借入金は、X3 年 2 月 1 日に銀行から ¥2,500,000 (利率年 2.4%、期間 2 年、利払日は 1 月末と 7 月末) を借り入れている。

X3 年 7 月 31 日 銀行からの借入金について、利息を普通預金口座から支払った。

X3 年 9 月 1 日 取引先から ¥1,200,000 (利率年 2.3%、期間 1 年) を借り入れ、同額が普通預金口座に振り込まれた。なお、利息は元本返済時に一括で支払う契約である。

X4 年 1 月 31 日 銀行からの借入金について、利息を普通預金口座から支払った。

X4 年 3 月 31 日 決算日を迎え、未払利息を計上した。

( ① ) 利息		( ) 利息	
7/31 普通預金 ( )	4/1 ( ) ( )	4/1 ( ) ( ② )	4/1 ( ) ( )
1/31 普通預金 ( ③ )	3/31 ( ) ( ④ )	3/31 ( ) ( )	3/31 ( ) ( )
3/31 ( ) ( )		( )	( )
( )	( )		4/1 ( ) ( ⑤ )

(2) 次の⑥～⑩におけるそれぞれの文の中で、正しいものとして最も適切な取引を 1 つ選び、ア～ウの記号で答えなさい。なお、商品の売買取引は、三分法によって処理する。

⑥ 資産が増加する取引

- ア 取引先に資金を貸し付ける目的で ¥1,200,000 の小切手を振り出した。
- イ 商品 ¥300,000 を仕入れ、代金は普通預金で支払った。
- ウ 備品 ¥700,000 (帳簿価額) を ¥800,000 で売却し、代金は来月末に受け取ることにした。

⑦ 負債が減少する取引

- ア 買掛金 ¥420,000 の支払いのため、手形を振り出した。
- イ 給料 ¥860,000 について、従業員負担の社会保険料 ¥74,000 を差し引いた手取額を、普通預金口座から支払った。
- ウ 当社が振り出していた手形 ¥360,000 の額面金額が当座預金口座から引き落とされた。

⑧ 純資産が減少する取引

- ア 株主総会の決議により、繰越利益剰余金を財源に、配当金 ¥730,000 を支払うことが承認された。また、利益準備金 ¥73,000 を積み立てる。
- イ 当期の純利益は ¥560,000 であった。
- ウ 会社の設立に際して、株式 7,000 株を 1 株当たり ¥1,200 で発行し、払込金額は普通預金で受け取った。なお、払込金額の全額を資本金とした。

⑨ 収益が増加する取引

- ア かねて販売した商品 ¥230,000 の返品を受けたため、掛代金から差し引くことにした。
- イ 銀行より、普通預金残高に伴う利息 ¥120 が振り込まれた。
- ウ 決算にあたり、家賃の未払分が ¥32,000 ある。

⑩ 費用が減少する取引

- ア 新たに事務所を賃借する契約を行った。1 か月分の家賃は ¥60,000 である。
- イ 営業活動で利用する IC カードに現金 ¥20,000 を入金し、領収書の発行を受けた。なお、入金時に全額費用に計上する方法を用いている。
- ウ 決算にあたり、費用処理していた切手 ¥8,400 の未使用が判明したため、適切な科目へ振り替える。

第3問 (35点)

次の(1)決算整理前残高試算表と(2)決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の貸借対照表および損益計算書を完成しなさい。なお、会計期間は2020年4月1日から2021年3月31日までの1年間である。

(1) 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表

2021年3月31日

借方	勘定科目	貸方
532,000	現金	
1,100	現金過不足	
2,800,000	普通預金	
2,600,000	売掛金	
1,220,000	電子記録債権	
660,000	繰越商品	
600,400	仮払金	
380,000	仮払消費税	
4,000,000	建物	
2,300,000	備品	
6,000,000	土地	
	買掛金	1,820,000
	借入金	8,100,000
	仮受消費税	560,000
	貸倒引当金	12,000
	建物減価償却累計額	2,000,000
	備品減価償却累計額	1,437,500
	資本金	4,000,000
	繰越利益剰余金	1,143,250
	売上	10,500,000
5,730,000	仕入	
2,050,000	給料	
523,000	旅費交通費	
34,500	保険料	
141,750	支払利息	
29,572,750		29,572,750

(2) 決算整理事項等

- 電子記録債権¥120,000が決済され、普通預金に振り込まれていたが未処理であった。
- 現金過不足¥1,100のうち¥950は旅費交通費の記入漏れであった。残額は不明であるため、適切に処理する。
- 仮払金¥350,400は、2020年6月1日に備品の購入代金として支払ったものである。残額は、法人税の中間申告で支払った額である。
- 消費税の処理を税抜方式で行う。
- 売掛金と電子記録債権の期末残高に対して2%の貸倒れを見積もる。なお、貸倒引当金の設定は差額補充法による。
- 期末商品棚卸高は¥642,000である。
- 建物および備品について、以下の要領でそれぞれ定額法により減価償却を行う。なお、当期新たに取得した備品についても同様の条件で減価償却を月割りにより計算する。  
建物：残存価額ゼロ 耐用年数25年  
備品：残存価額ゼロ 耐用年数8年
- 保険料の前払分¥3,000を計上する。
- 借入金は2018年10月1日に借入期間3年、年利率3.5%、利払日9月末で借り入れたものである。そこで、利息の未払い分を月割計算により計上する。
- 法人税、住民税及び事業税¥525,000を計上する。